

小学校算数

授業アイデア例①

中学校数学でも適用可能


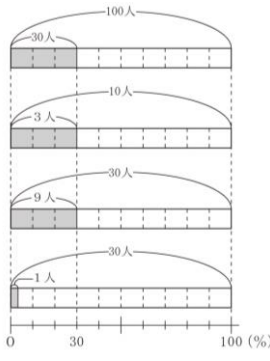
単元の中には、「教えること」や「習熟」が大切な時間もあります。時間配分や展開の仕方を工夫してみましょう。

学年	小学校第5学年
単元	「割合」百分率
実施時期	10月頃

第1時 第2時 第3時 第4時 第5時 第6時 第7時 第8時 第9時

単元のはじめなど、学習内容を確実に教えて、習熟できるようにすることが重点となる時間もあります。



過程	学習活動
導入	<p>○問題提示</p> <p>たかしさんが入っている野球チームの人数は20人で、そのうち7人が6年生です。6年生の人数は、チーム全体の人数のどれだけの割合ですか。</p> <p>・式 $7 \div 20 = 0.35 \rightarrow$ 割合は0.35</p> <p>教えること① 用語と表し方を教える。</p> <p>・0.01は1% ・このような割合の表し方を百分率といいます。</p>
	<p>○課題 百分率を使って割合を表そう。</p> <p>教えること② 「100とみる」という見方を教える。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>今までは、もとにする量を1とみていたけど、百分率は100とみているんだね。</p> </div> </div> <p>習熟① 割合の表し方の基本問題(百分率⇔小数)</p> <p>・小数を百分率で表す問題: 0.05は何% 0.1は何% ・百分率を小数で表す問題: 47%を小数で 8%を小数で 等</p> <p>習熟② 百分率の文章問題</p> <p>まみさんは、60ページの本を15ページ読みました。まみさんが読んだページ数は、本全体の何%ですか。</p> <p>・式 $15 \div 60 = 0.25$ 答え 25% 等</p> <p>習熟③ 報告書等を活用し、さらに習熟を図る。</p> <p>○割合が30%のものを全て選びましょう。</p> <p>ア 100人をもとにしたときの30人の割合 イ 10人をもとにしたときの3人の割合 ウ 30人をもとにしたときの9人の割合 エ 30人をもとにしたときの1人の割合</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  </div> <p>もとにする量がそろっていない複数の事象について考えることを通して、「割合が30%」の意味を確実に押さえます。</p>
展開	
終末	

教科書の文言で「～と書きます」「～といひます」のような記載がある場合など、**用語や表し方について学習する時間**の提案です。

【教える際に留意したいこと】

- ・ 教師が一方向的に説明するだけ。
- ・ 板書をノートに写すように指示するだけ。
- ・ 「分かりましたか?」と言葉で確認するだけ。



- 子どもに問い返しながらか確認する。
→「1%はもとにする量を100としたときの1の割合だね。では、割合0.01のときのもとにする量はいくつかな。」 など
- 例題を出しながら確認する。
→「0.01は1%だね。では、0.3は何%? 0.3は何%?」 など



【習熟の際に留意したいこと】

- ・ 教科書の評価問題の丸付けをするだけ。
- 教科書の評価問題の構成をふまえた指導
→評価問題の大問が分かっていたら、その意図を読み取り、それぞれの内容が理解できるように指導する。
- 理解が曖昧な子を教師が集めて教える。
→他の子どもが学びを進める間に集め、どこまで分かっているか確認しながら教える。
- 早くできる子も「できて暇」とならない工夫
→NEW!GIFU ウェブラーニングに取り組む。
→難易度の高い問題を用意しておく。
→次にどんなことを考えたいか聞く。 など

どうしてこの指導が大切なのかという

「教えること」を子どもに考えさせてしまうと時間が足りなくなることが多いです。

上記の留意点を踏まえながら教え、習熟を図る時間を確保することで、学習内容を確実に身に付けることにつながります。

また、既習内容は「教えてもよいこと」と捉え、既習内容でつまづいている子どもには教え、「本時考えること」にじっくり取り組めるようにしたいです。

本アイデア例関連

▶ 報告書 (小学校算数)
P.81~83 (4)運動調べ



▶ 報告書 (中学校数学)
P.27~29 (4)反比例

